

人はそれぞれ、長い人生の中で、何かのかたちで機縁をいただくことがあろうかと思います。私事に関わることですが、母のことばについて少しお話しさせていただきます。

母は、浄土真宗本願寺派の寺院に生まれ、縁あって真宗大谷派の寺院に嫁いでまいりました。その人生の大半は、荒廃した寺の復興整備と門徒の家への月経（月参り）、仏教婦人会の結成、保育園の経営等、宗教と福祉活動に努めた人でした。

その母が、私が上京する際に小さな三折本尊と念珠を携帯させ、日々の称名念仏を忘れないように申し付けました。しかし私は新しい生活への夢と不安で、母の言葉はうわの空で聞き流し、それからの生活はお念仏と疎遠な生活を送っておりました。その私に姉が2人の子どもを残して他界しました。誰しも経験されておられるように、肉親の別れは言葉で表現し難く、悲しみと深いころの動揺は、容易に消えるものではございません。私たちは、すでに生・死を身に受けていると言っても、そんな時に母が私たちに聞かせてくれた「仏 今現在、^{おわ}存します」、日々称名念仏を忘れないようにという言葉が思い出されました。このことが後に私の新しい生活への機縁につながったかと思います。

母が他界して20有余年の歳月が経過いたしました。母が意識不明でベッドに横たわっていて、私たちが見守る中、突如として「お念仏」を2回ほど称えました。全くの驚きでした。その後6時間程してお浄土へと還って行きました。今にして思えば生かされてあることへの「お念仏」、^{まこと}信の心の自覚の表現ではなかったことかと思う次第です。姉の死、母の信仰生活の姿が私のその後の人生に機縁としてつながったと思います。